

## 未来を担う子供のための 国語教育

三森ゆりか

本誌の連載を終えるにあたり、今回は未来を担う子供のための国語教育のカリキュラムについて私は提言したい。母語の教育は教育の根幹であり、文化の基盤をなすものである。日本の文化を継承する次世代を育てるためにも、世界の中で日本人が十分に意見を発信していくためにも、これからの国語教育には国際社会の水準に見合った体系的なカリキュラムと指導技術が必要だ。国語教育のカリキュラムは、家庭教育から高等教育までを視野に入れ、言語技術教育、文学教育、古典教育の三本の柱によって構成されるのがよい。

### (1) 言語技術教育

言語技術教育では、社会で有用な言葉の運用技術を指導する。ここに含まれるのは次のようなものである。

〔話す技術〕 コミュニケーションをしたり、分りやすく考えを伝えたりするための技術。対話、討論、議論、ディベート、プレゼンテーション等の技術が含まれる。

〔聴く技術〕 情報を何となく「聞く」ことと要点を意識的に「聴く」ことは意味が異なる。聴く技術がないと話す技術を十分に発揮できない。要点をとらえたり論理的矛盾を聴きとったりするには技術が必要である。

〔読む技術〕 文章化された情報を読むには技術がいる。欧米では読書技術教育を義務教育の中で実施し、文章を分析したり、解釈したり、批判したりする技術を教える。読書技術教育が文学教育と深くかわることは前回に書いた。読む技術は、応用範囲が広い。ここで学ぶ分析的思考や批判的思考は議論の基礎となり、この技術がないと議論に参加することすらできない。

〔書く技術〕 手紙、作文、論文などを書くための技術。叙事文(生活文・創作文など)、情報文(説明文・描写文・報告文・記録文など)、論証文(論説文・小論文・論文)などが含まれる。

〔考える技術〕 論理的・分析的・批判的・創造的思考力、想像力、推論等が含まれる。聞く・話す・読む・書く、の言語の四機能の土台となるのが考える技術である。

### (2) 文学教育

文学教育では、作品を読むための技術を学び、内容に

ついて徹底的に討論して作品の本質に迫り、考えた結果を文章にまとめる必要がある。

〔読み聞かせ〕 家庭教育、幼児教育の段階で、日本の昔話をはじめ多くの物語を耳から聞かせ、日本語のリズムと言葉を身につけさせることが重要である。

〔朗唱と暗唱〕 朗唱と暗唱は国語教育の中ですっかり廃れた。欧米ではこれらが重要視され、義務教育の過程で実施されている。日本語の美しいリズムを体得させるためにも、幼児期からの朗唱・暗唱を復活させたい。

〔読書技術教育〕 これについてはすでに述べた。

〔義務読書〕 現在の国語教科書は読めない子供に合わせた水準の低い作品を掲載しているように私には思われ。国語教育では次代を担う文化の継承者を育てなければならぬ。欧米の義務教育で当然のように実施されている「義務読書」の理念を日本の国語教育にも取り入れ、日本の近現代文学の名作を子供の発達年齢に応じて丸ごと一冊読ませることを義務化すべきではないか。国際社会に出たとき、日本人が森鷗外や夏目漱石、川端康成、大江健三郎も知らないでは相手にされない。

なぜなら様々な文化的背景を背負った人々が集

まる国際社会では、自国の文化を尊重しない人間は評価されないからである。

### (3) 古典教育

古典教育は、ヨーロッパで言えばラテン語とギリシャ語教育にあたる。これらはヨーロッパ人の教養の基礎であり、ヨーロッパ文化継承の基盤でもある。同様のことを日本でも徹底して行ったほうがよい。日本文化としての古典を学ぶことは当然だが、東アジア人として世界の中で生きていくために漢文教育は必要であろう。現在もむろん古典の教育は実施されている。しかしそれは、単に文法と現代語への翻訳方法を指導しているに過ぎないのではないか。古典を用いて読書技術教育を実施し、思想や文化を深く理解することこそが重要である。

ここに提示したカリキュラム案は、国際的な水準に十分に合った内容である。言語能力の低下が叫ばれている子供に言葉を取り戻すためにも、国際社会の中で日本人の地位を確固たるものにするためにも、豊かな未来を確実に拓くためにも、国語教育の抜本的改革が今こそ必要なのではないか。

(つくば言語技術教育研究所)